

時々局面で、良いと思った途をゆくしかない。また世話になった人々の御恩を忘れてはいけない。

問：若い人達に言いたいことは？

——とにかく、良い仕事をするためには、好きになることだ。そして、努力すれば、必ず、好きになる。このことは、全てのスポーツと共通である。好きになれば、研究のやり方は自然に開けてくる。自分に合ったやり方でやれば良い。私のように頭のわるい者でも結構楽しく研究生活を続けてきた。

問：日本に対する印象は？

——もう少し、国際的になって欲しい。MONEX の時、かなり悪口をいわれたし、評判が悪かった。

英語をペラペラしゃべる必要はない。視野を広くすることが大切である。自分だけ、日本だけ良ければよいと考える人が多すぎるように思う。日本の予報は一つの県とか、せいぜい日本附近の予報を意味する。不思議な国である。世界の予報をするつもりでなければ良い予報ができるはずがない。ひまわりの写真は日本の予報ばかりでなく、中国、東南アジア、オーストラリアの国々で広く使われている。世界中の気象学者もひまわりのデータを使いたいと考えている。ひまわり

の業務管理がこのような視野で行われているかどうか疑問である。

老いてもなお、気概を失わず奮闘している姿は、剣道五段の腕前と合わせて考えると、明治生まれの日本人の気迫を感じさせる。表題を“古武士”とつけたら、表題の如く変更を要求された。その理由に曰く、刀は作られた年代で区分する。“古刀”は秀吉時代（慶長年間）以前に作られたもの。“新刀”は慶長から文化年間まで、即ち徳川末期（1805）までのものであり、それ以降のものは“新々刀”と呼ばれている。従って“古武士”という呼び方は一般にはよく使われているが、幕末や維新の頃の武士を“古武士”と呼ぶのは妥当でない。古武士というからには武士道精神が確立（宮本武蔵）以前の武士をさす。また私自身は未だ若いと思っているので、擲楯を交えて“新々武士”という表題にしたいとのことであった。

今後の御健康と御活躍を祈念して、この回を終えることにしよう。

（住 明正）

日本気象学会国際学術交流基金への募金のお願いと寄付者御芳名（第13報）

日本気象学会は、かねてから各国の気象関係組織および研究者との学術交流を図るため、国際学術交流基金をもうけて、学会もしくは会員の学術交流の援助を目的とした活動を致しております。実施にあたっては、外国で開催される国際学術研究集会への会員の出席の補助、国際学術交流に貢献する事業の援助などです。

本来この基金は、少なくとも一千万円程度の元金があって、その利息で活動費をまかなうことを目標としていますが、現在のところ、その過渡期として、学会自身の年間予算から毎年約百万円を積み立て、並行した、わずかの一般事業費と篤志による個人寄付金で活動を行って

おります。

基金の基礎を固めるためには、是非、会員の皆様からの御寄付をお願いします。理事会としては、さらには大口の団体寄付を仰ぐべく努力致す所存です。国際学術交流基金の趣旨を御理解いただき、12月号挿入の振替用紙を御利用の上、一口千円として、なるべく多くの御寄付をお願いします。

なお、募金期限は昭和62年12月末日と致しますが、早い時期にお振り込みいただきますようお願いいたします。

昭和62年7月

日本気象学会

昭和62年6月30日現在、下記の会員からご寄付がありましたので、お礼を兼ねて報告申し上げます。（敬称略）

記

栗城 弘幸、金澤 照子、阿部 克也、小寺 邦彦

1987年7月

以上4名 合計口数 71口 71,000円

累計112名 1団体 939口 939,000円

62.6.30 現在 国際学術交流基金額 5,000,000円

（うち配当金 158,683円 基金繰入）